

ある日、『シオン』という名前の王子が、数人の家来たちと共に、森で狩りをしていました。

「ん？なんだこれは・・・誰かが歌を歌っている」

ふとシオンの耳に、かすかな歌声が聞こえてきました。

「シオン様、この森には、恐ろしい魔女の住む塔があるという噂を聞いたことがあります」

「危険です。もう帰りましょう」

「・・・いや、私はここに残る。この歌声がどうも気になるのだ。お前たちは先に城に戻っている」

「お待ちください、シオン様ー！」

シオンは家来たちを置いて、その歌声の主を探しに、一人で森の奥へ入って行きました。



うたごえ たよ もり なか
歌声を頼りに森の中をさまよっていると、やがてシオンは
おお ふる とう み
大きな古い塔を見つけました。

けらい い とお まじょ す とう
「家来たちの言っていた通りだ。ここが魔女の住む塔なの
か？」

うたごえ とう うえ おお まど なか き
どうやら歌声は、塔の上にある、大きな窓の中から聞こえ
ているようです。

とう まわ さぐ ふ し ぎ
シオンは塔の周りを探ってみましたが、不思議なことに、
どこにも入り口らしきものがありませんでした。

なか はい
「おかしいな。どうやって、中に入ればよいのだ。ああ、そ
れにしても 美しい歌声だ。この声の主は、一体誰なんだ」

まいにち とう した あし はこ うつく
それから毎日、シオンは塔の下へと足を運び、その 美
うたごえ き い
しい歌声に聴き入っていました。



One day, a prince named Sion was hunting in a forest with his servants.

"Hmm? What's that? Someone is singing."

Suddenly, Sion heard a faint singing voice.

"Prince Sion, I've heard a rumor that there is a tower in this forest, where a fearsome witch lives."

"It's dangerous. We should go back."

"...No, I'll stay here. I can't get that voice out of my head. You go back to the castle first."

"Wait, Prince Sion!"

Sion left his servants there and went alone deep into the forest to find the owner of that singing voice.



After having roamed in the forest in pursuit of the voice, he found an old big tower.

"Oh, so I suppose this is the tower my servants were talking about. The tower where the witch lives."

It seemed the singing was coming from the big window on top of the tower.

Although Sion searched around the tower, there was no entrance anywhere.

"This is strange. How can I get inside? Ah, what beautiful singing. I wonder whose singing that is."

Since then, Sion has visited the tower every day, being fascinated by that beautiful singing voice.

